

青年部報

平成22年12月24日

発行：北九州市

私立保育園連盟

青年部会

発行人：竹内 浩二

編集人：鷲峰 康尚

《全国青年会議・北九州大会》

実行委員長挨拶

夜部 辰巳(さかえ保育園)

皆さま、こんにちは。実行委員長を務めました八幡西支部、さかえ保育園の夜部です。この度は、全国私立保育園連盟青年会議第30回北九州記念研修大会を10月14日～15日にリーガロイヤルホテル小倉にて開催させて頂きました。北九州市私立保育園連盟、北九州市保育所連盟、北九州市保育士会の諸先輩の先生方には、多大なる御支援、御協力を頂きまして誠にありがとうございます。実行委員一同、深く感謝申し上げます。お陰様をもちまして重大な問題等なく無事閉会する事が出来ました。北九州市での青年会議全国大会の開催は初めての事で、手探り状態の中、全員で色々と知恵を出し合い協力し、何とか終える事が出来ました。大会参加者数も500名を超える大会となりました。全国各地よりお出で下さいました参加者の皆様や御来賓の皆様、講師の先生方にも重ねて感謝を申し上げます。また、開催中は忙しさにまぎれて何かと不行き届きの点がありました事を心よりお詫び申し上げます。あつという間の、2日間でしたが北九州市青年部も、大変貴重な経験が出来た事と思います。今後共、青年部におきましては、益々の御指導を賜ります様お願い申し上げます。甚だ簡単ではありますが御礼の御挨拶と致します。ありがとうございました。

【大会日程】

《大会一日目 10月14日(木)》

12時

受付

13時

開会式

14時15分

行政説明

15時25分

情勢報告

16時10分

記念講演

18時30分

ホテルチェックイン等

18時30分

情報交換会

《大会二日目 10月15日(金)》

9時30分

受付

10時

分科会

12時30分

閉会式



開会式の様子



【開会式・行政説明・情勢報告】

開会式では、大会実行委員長挨拶に始まり、私保連黒川会長、青年会議 妹尾会長、北橋市長、尾辻参議委員副議長、その他の来賓の方々より祝辞を頂き、第30回記念大会は500名を超える参加者が見守る中開会した。

開会式後、厚生労働省少子化対策企画室 室長黒田秀郎氏より『保育をめぐる国の動向と課題』と題した行政説明があり、地域主権改革(保育所の基準関係)について、次世代育成支援の構築に向けた検討経緯の説明。また、子ども子育て・新システム(案)における検討会議・基本制度案要綱等についての細かな説明があった。

続いて、全国私立保育園連盟 常務理事 木原克美氏より保育の仕組みにかかわる動きと課題について情勢報告がなされた。ここでは、新政権スタート後の保育関係の課題として最低基準撤廃、延長保育・保育料問題、民間保育園一般財源化問題等について



情勢報告があり、子ども子育て・新システム(案)について内閣府のこれまでの動きと今後の見通し、そして新システムの課題や盛り込まれていると考えられる内容について講演され、最後にこの新システムにおける疑問点についての説明があった。

鷲峰 康尚(木屋瀬保育園)

【記念講演報告】

講師・北九州市保育所連盟 顧問 藤岡佐規子氏
『子どもたちの視点で』

はじめに、北橋市長のピンチヒッターとして講演を受けた。全国私立保育園連盟青年会議の発足経緯とその後北九州市の保育のあゆみについて、最後に子ども子育て新システム(案)について話された。

発足については、その当時、北九州市で全国組織の大会を開催し、大会の裏方として一生懸命働いていたのが北九州市の若手青年達であった。それがきっかけになり、全国組織の中に青年たちが活躍でき学べる場をという経緯で本青年会議が発生した。

北九州市制が誕生して47年経つ、その当初、初代西村会長の保育は北九州市からということばを合言葉に、行政と共に整備してきた保育条件がある。初代市長時代は、保育の専門性について参議院法制局に見解を問い、2代目市長時代には、全国に先駆けて研究調査結果をもとに乳児3対1の配置を、また布オムツの使用が実施された。また、障害児(軽度)3対1加配、緑地保育センターの配置。研修の重要性について認め、保育研修所の設置と研修代替雇用費補助制度が創設された。

3代目市長時代には、第三者評価事業の創設(現在も北九州市は、無償での第三者評価を受けることができる)。また、子育てふれあい交流プラザの創設も組織の取り組みが先行したものである。

現市長(北橋市長)は、子育て日本一を実感できる街を施策の目玉としているが、北九州市の子どもたちが、将来この街に生れてよかったと思えるような街づくりへの



配慮を期待している。

子ども・子育て新システム(案)について：保育園が既に実践している養護と教育及び保護者支援になぜ新たな仕組みが必要なのか？幼保一体化を当事者は何れも要望していない。上意下達の姿勢は旧政権

よりも一層、民主主義のルールに反するのではないかと、焼土の中で子どもに唯一の夢をかけて作られた最低基準が、豊かになった今、最高基準になるのはなぜか？時間による保育実施認定と保育の連続性はどのように考えているのか？常に入れ替わる保育者 派遣の増加、担任と保護者の関係は？ 精神的貧困 物質的貧困 疲れた親への関わりは日々雇用の保育者で対応できるのか？都市圏出身議員が進める保育施策、保育が緊急課題となっていない実態(国会議員に対する、保育の質に関するアンケートの回収率が8%)子どもの視点ではなく親の事情によるポイント性はどんなものか？新システムを可能にする財源を思い切った増やす大勝負は望めるのか、企業への肩代わりを期待しているのではないかと疑問は？

等々、問題点が多すぎ、子どもの育ちという視点が欠落した論議になっているのではないかと？日々刻々と変化する情報を的確にキャッチして、当事者として声をあげなければ、後年その姿が問われるのではないかと。大人は自分の暮らしやすい社会を目指し、子どもたちへの心遣いを忘れてしまっていないか？人類の根っ子を育む営み(子どもの現在(いま)が日本の未来(あす)を視点に考え

なければ明るい未来は望めないのではないか。保育という言葉の意味をもう一度確かに捉えよう！

最後に、かけがえのない只ひとつのいのちを育む営みは、変化に流されてはいけない不易のものである。

竹内 浩二(光沢寺第二保育園)

【第一分科会報告】

講師・白梅学園大学 学長 汐見 稔幸氏

『青年期までを見通した保育を考える』

第一分科会では、汐見稔幸先生をお招きして、「青年期までを見通した保育を考える」というテーマでご講演をして頂いた。

先生はまず、様々なデータを挙げて日本の若者の現状(ひきこもり、学習意欲の低下等)を分析され、その原因として自尊心の低さを指摘された。



そして、これからの保育の課題として、自尊心をしっかりと育てること、自尊心に基づく社会性、関わる力(EQ)を伸ばすこと等を挙げられた。

①自分が生きていることが安心できる感覚、②自分のやりたいことができる感覚、③自分が生きていることを歓迎されているという感覚、④自分が選んでいることを尊重し大事にしているという感覚などを持つことが大切であると述べられていた。

それに対し、今即効的な効果を求める保育が増えて

いる傾向にあると、後半ではその例として横峯式の教育を取り上げ、批判的に検討されて講演を終えられた。

2時間という短い時間ではあったが、内容の濃い充実した分科会となった。

村上 貴道(専城乳児保育園)

【第二分科会報告】

講師・北九州市立八幡病院 院長 市川 光太郎氏

『現場から見える虐待の現状について』

第二分科会では市川光太郎先生を招いて虐待の実情について講演をいただいた。

この20年間で発生件数が約40倍(1000人に1.5人)にも増えたという虐待(マルトリートメント)は現在では全く珍しい出来事ではなくなってしまうと捉えざるを得ない時代になってしまった。虐待は如何



に早く見つけて、早く保護して軌道修正してあげるかが大切であり、家庭(家族)機能が低下している現代において『気になる子、気になる親、気になる親子の雰囲気』を敏感に感じ取って情報交換をし、地域と行政で子どもたちを守るという意識、皆で子育てをするのだという気持ちで虐待の防止に繋がる。また、難しいことではあるが、地域から離れている家庭を呼び戻し、親の資質を変えることも重要である。

参加者は、多くの症例画像を通して、虐待の現状をリ

アルに実感できたのではないか。

日々親子に寄り添える唯一の職務に就いている我々が、如何に健全な親子・家庭環境への支援を行い、負の影響を受けない子どもたちの健全育成の一翼を担うか。

日々の保育の中の気づき・見守り・家庭支援の方法をもう一度見つめ直して今後とも虐待の早期発見に努めたいものである。

金原 秀樹(塔野保育園)

【第三分科会報告】

講師・九州大谷短期大学幼児教育科 教授 山田 真理子氏

『気になる子どもたちの背景にあるもの』

『気になる子どもたちがおしえてくれること』とのテーマで、九州大谷短期大学幼児教育学科の山田真理子教授にご講演をいただきました。

「保育者は言語化が下手な専門家」との指摘には、専門職として「伝える技術」の必要性を痛感させられました。

また、教授の専門である「幼児のメディア危機」については、数多くの具体例をもとに、気づきや視点をいただきました。

更に、事例研究レポートの書き方の実践例もご指導いただきました。



藤上 良裕(きくが丘保育園)

【第四分科会報告】

パネリスト・植野雅子氏(企業代表)

杉井千春氏(個人代表)

本山晴子氏(組織代表)

コーディネーター・北野久美氏

「子育てしやすい街を目指して」をテーマにパネルディスカッションが行われた。初めに「TOYO株式会社(ダイバーシティ推進部)植野雅子さんより、企業の取り組みについて説明がなされ、次いで北九州市三田表彰 市長賞受賞の杉井千春さんより、自分の希望するバランス(仕事、家事、育児)でいかに時間を作り、自己研鑽出来るかを語っていただいた。そして、北九州市三田表彰 奨励賞受賞、北九州ワーキングマザー



ネットワーク代表 本山晴子さんより、働く親を支援する組織の活動や現状を語っていただいた。後半は質疑応答の時間を設け、参加された先生方やコーディネーターの北野先生より保育現場からの意見や保育士のワークライフバランスについての考えをパネリストに述べていただき互いに理解を深め合えた分科会となった。

梶原 義昭(足原だきしめ保育園)

山崎 公博(こじか保育園)

【情報交換会報告】

全国から300人を超すお客様を「無法松の一生」で有名な小倉祇園太鼓の音色が出迎え、情報交換会は開式となった。

この情報交換会も第30回記念大会にふさわしい華やかなものになるようアトラクションにも多芸多才な方を招いた。

地元北九州市出身の椿正範氏の津軽三味線、門司区出身で北九州市観光大使の芋洗坂係長のトークや踊り、福岡を拠点に活躍される長淵剛の物真似で有名な勇次氏が情報交換会を盛り上げた。



料理についても実行委員全員が意見を出し合い参加者全ての人に満足してもらえるようリーガロイヤルホテル小倉協力の下、地元食材をふんだんに取り入れたメニューとなった。オープションの屋台では、小倉発祥の焼うどん、門司の焼カレー、北九州のどんこラーメンの三品を取り揃え、全てがあっという間に完売となり、大好評であった。

盛況のうちに鈴木右氏(全国青年会議・前会長)による万歳三唱で閉会となった。

今回このような大きな記念大会で、一役担えたこと

は実行委員全員にとって大きな財産であり、北九州市保育関係の方々全てに支えられながら、力を合わせて一つの事を成し遂げたことは、実行委員一同にとって大きな経験となった。

橘原 淳成(光法保育園)

〈編集後記〉

今大会を開催するにあたって、私たち実行委員会がまず行ったことは、テーマをどうするかでした。そして今にして思えば、『子ども達の視点で』を選定することに一番多くの時間を割いていました。



大会は、無事終了しましたが、このテーマに副った大会がうまく出来き、参加者一人ひとりに私たちの大会に対する思いを伝えられたのかどうかは分かりません。ただ、大会が終わったから、このテーマも終わりという訳ではないと思います。今後は、実行委員各々が自園、そして北九州で、また更には全国各地に『子ども達の視点で』行う保育を広げていければと思います。